



棗校だより

令和7年度 10月号 No.6 10月9日発行
福井市棗小中学校 福井市石新保町12-32 TEL 85-1099

校長 藤木 洋子

○ 地区中体連秋季新人大会

男女ソフトテニス部が新チームになって初めて臨んだ新人大会では、一人一人が全力でプレーする姿が見られ、棗の良さが随所に見られました。女子は団体2位で県大会に出場します。男子は少人数ながら健闘し、個人戦でベスト8に入るなど、夏の大会での活躍が期待されます。生徒たちは棗のソフトテニスの伝統を繋ぎ、奮闘しています。引き続き温かい応援をよろしくお願いします。

○ 合同運動会 Efes. (イーフェス)

棗中、国見中、大安寺中の3校で合同運動会を開催しました。小規模校の良さは多々ありますが、中学生の多感な時期に同年代の人とコミュニケーションをとり、自分の良さに気づくとともに、人から学ぶこともたくさん見つけてほしいと思い、企画しました。

生徒たちは、普段と違う仲間と協力し、大きな声援を掛け合いながら全力で競技に打ち込んでいました。3校の生徒も教職員も笑顔満面の一日を過ごすことができました。

○ 中学生福井王決定戦

中学1年生の上間さん、吉田さんが中学生福井王決定戦に出場しました。熱戦を繰り広げ、よく健闘しました。私も応援に行きましたが、知らないことが多く、出場した中学生の知識に感心しました。特に「2月7日は何の日？」は上間さんだけが「ふるさとの日」と答えられ、会場が拍手喝采でした。

◇ 教育とは

今年の24時間テレビ「愛は地球を救う」の中で取り上げられた、栃木県小俣幼児生活団で主任保育士を任されている大川繁子氏のことばが印象的でした。10歳で日中戦争がはじまり、18歳で第二次世界大戦が終戦するという、戦争の時代を生きてきたそうです。「日本は正しい戦いをしているのだから勝って当たり前。負けるはずはない。」そう教えられながら毎日、竹やりを持って突きの練習をしていました。何かを考える余裕すらなく、当たり前になんか日々を繰り返していたのです。そして「終戦を迎えた時、一気に洗脳が解けた」と彼女は言います。このような経験から「大人が考えを押し付けたら、子どもは簡単に染まってしまう」と思い知ることになりました。大川氏は言います。

「教育ほど恐ろしいものはない」

教師にとって、胸に響く言葉です。私自身、教職に就いてから35年になりますが、若い頃に「国を良くするには、教育を良くすることだ」と聞かされ、身の引き締まる思いで、教壇に立ってきました。大川氏の言葉から、改めて、我々教職員の使命を胸に刻む思いでした。これからも、子どもたち自身が、正しい判断をして、強く優しく、幸せに生きていけるよう、教育に携わっていこうと再認識しました。

小学校

☆1年生☆ 自分たちの畑で育てたメロンを試食。おいしくて、みんな😊でした。



☆2年生☆ 町たんけんで公民館へ。「栗の宝」をたくさん教えてもらいました。



☆3,4年生☆ 車椅子体験をしました。実際に乗ってみて気づくことがたくさんありました！



☆5,6年生☆ 福井市小学校スポーツフェスタへ。他校の友達と卓球バレーなどを楽しみました。



夏休みが終わり、文化祭、期末テスト、新人戦と慌ただしく9月が過ぎていきました。そして今年初めて国見中・大安寺中と合同で体育大会を開催しました！

文化祭盛り上がりました！



○福井地区秋季新人大会○

団体戦 女子の部 第2位（県大会出場）



E fes.（栗・国見・大安寺合同体育祭）初開催☆

3校の中学生が集まって、スポーツ大会を行いました！
福井市体育館いっぱい中学生パワーがあふれていました。

